



2023 年度
第 21 号

体育市民連帯 ニュースレター

大韓民国スポーツの

根本的变化を

皆さんと共に

作って行きたいです

体育市民連帯と共に

していただけますか？

教育当局
高校「野球部校内暴力」
の
監督調査に着手



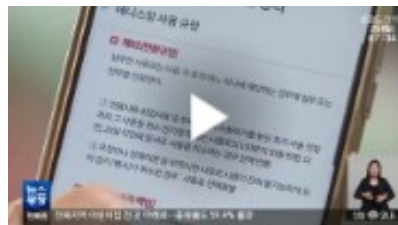
11 歳シルム天才
韓国人キムウェンディ
全国体育大会を
超える大きな夢



「相変わらず営業」…
体育館館長
怪しい触感遊び
その後



公共体育施設
「度胸営業」…
キャンセルは大変で
払い戻しも半分だけ



1 歩当たり 1 ウォンずつ
運動も寄付もして！
学校別の多様な
体育活動



01 韓国日報 2023.05.23

教育当局、高校「野球部校内暴力」の監督調査に着手



教育当局が最近、校内暴力論議に包まれたソウルのある高校野球部監督など指導者たちを対象に調査に着手した。特惠事実などが明らかになれば、正式監査に転換して調査する方針だ。

23日、韓国日報の取材によると、ソウル市教育庁は前日、該当高校に体育健康文化芸術科所属奨学士と江南瑞草教育支援庁奨学士などで構成された特別奨学チームを派遣した。特別奨学は教育庁レベルで学校関係者面談および書類実態調査などを通じて事実関係を把握する一種の現場調査だ。奨学指導の過程で問題点が捕捉されれば、監査に転換される。

今回の特別奨学は、校内暴力事件での監督の対処が適切だったかどうかを調査する目的だ。特に加害生徒の一人であるA君(17)が野球界の有力者である現職プロ野球団長の息子という点が、監督の生ぬるい対応と関連があるかどうかを調べる予定だ(▶関連記事:[単独]プロ野球団長の息子「校内暴力」半年前に知らせたが… もっと大きな暴力が返ってきた)。先立って昨年9月、該当高校と大学野球部の練習試合途中、監督B氏がA君を連れて彼の父親が座っている大学ダッグアウトに入り、20~30分後に出てきて一部の保護者たちが問題を提起したりもした。さらに、A君が1年生の時、半年間に数回ポジションを変更(投手→一塁手→捕手)したことも特惠論争を呼び、当局はこの部分も調べる予定だという。

市教育庁の学校暴力対策審議委員会(学暴委)もまもなく開かれる。加害者・被害者の自主調査を終えた学校側は24日、校内暴力専門担当機構の議論を経て管轄教育庁校内暴力委員会に事件を移管することにした。学暴委の手続きとは別に、文化体育観光部傘下の独立機構であるスポーツ倫理センターも人権侵害の素地があると判断し、調査に入った。倫理センターが調査結果によって該当事件を警察などに捜査依頼する場合もある。

出典：<https://www.hankookilbo.com/News/Read/A2023052310280000201?did=NA>

02 ハンギョレ 2023.05.26

11歳シルム天才「韓国人」キムウエンディ、全国体育大会を超える大きな夢



金ウエンディ君(11)は、韓国で生まれ育ったコンゴ民主共和国出身の難民2世だ。15日、京畿道安山の京畿道外国人権支援センター会議室で<ハンギョレ>と会った彼の日常は学習誌宿題に追われ、ピアノ学院で「チェルニー

100」を学ぶなど普段と変わらない。

違いがあるとすれば、格別な運動神経。2年前、学校の体育先生の提案でシルムを始め、入門2ヵ月後に全国子供シルム王大会で優勝した。この2年間、7回大会に出場して4回優勝したほど実力がある。しかし、27日に開かれる全国少年体育大会には出場できない。

シルムは韓国でしかできないじゃないですか

シルムの有望株が大会参加権利まで奪われたのは、全国体育大会参加資格が「大韓民国国民」に限定されるためだ。2010年に韓国に来たキム・ウエンディ君の両親は、2018年に難民認定を受けたが、国籍は獲得できなかった。金ウエンディ君も同じだ。

毎日2〜3時間友達と一緒に訓練するが、大会日には一人で学校に残らなければならない。金ウエンディ君は「大丈夫です。私は外国人ですから」と言う。最近はサッカーに種目を変えようかと悩んでいる。彼は「フランスに行ってムバペのような選手になりたい」と話した。母親のドルカスさんは目頭を赤くした。

「初めてシルム大会に出られないことを知って、子供が本当にとっても悲しんでいました。シルムは韓国でしかできないのに、それができないから……。」

韓国で生まれ韓国語を話し、韓国文化の中で生きてきたにもかかわらず、韓国スポーツ界はまだ金ウエンディ君のような人に冷たい。移住社会という現実には向き合ったが制度が追いつけない間、移住青少年たちの夢は座礁している。韓国で彼らは太極マークをつけることも、職業スポーツ家になることもできない。

参加資格を拡大することはできないだろうか。大韓体育会の衆論は「時期尚早」ということだ。京畿道外国人 인권支援センターが質問し、先月大韓体育会から受け取った答弁書によれば、全国17市・道体育会と49会員種目団体を対象にした意見収斂結果が出ている。「全国(少年)体育大会に外国人選手の参加を許容すべきか」という案件に計32団体が回答し、このうち21ヶ所が反対、11ヶ所が賛成意見を出した。過半数の65.6%が参加資格の国籍制限を崩すことに反対している。

反対の名分は△大会目的に反する△国内選手逆差別△悪用憂慮などだ。世宗市体育会は「100年以上続いてきた全国体育大会の歴史に照らしてみると、簡単には許容できない」として「参加を許容する場合、各地域の無分別な外国人迎え入れ競争が繰り広げられ、大会趣旨に反する恐れがある」と書いた。伝統性と競争生態系を害するという主張だ。大韓剣道会は「全国体育大会の成績は学生選手は上級学校進学、実業チーム選手は再契約年俸に反映される」と書いた。「国内選手」が受ける入試・生計の打撃に対する憂慮だ。

韓国に住んでいる人たちの和がまさに韓国的なものだということ

反面、賛成する側では学生も選手も減っている現実を言う。外国人選手参加許容の立場を明らかにした11団体の大部分が「少子高齢化にともなう人口減少と選手需給困難」を理由に挙げている。大韓シルム協会の場合「一定期間大韓民国正規学校の学籍を維持しているならば大会に参加する機会を提供しなければならない」という意見を聞き、大韓エアロビクスヒップホップ協会はずで「種目別全国大会で国内居住外国人参加を許容している」と明らかにした。

このような反応は移住時代に制度圏体育界が直面した現実を示している。英国ラフバラ大学でスポーツ社会学を研究するタク・ミンヒョク教授は「移住児童が良い運動神経を前面に出して特定種目を全て掌握するかも知れないという考えがどれほど科学に基づいたのかは不明だ。初期には恐怖の対象になりうるが、結局数多くの題目の一つとして定着するだろう」と指摘した。合わせて「競争的選手育成やスカウト問題は警戒しなければならないが、それも移住児童だけが該当する問題ではない」と話した。

タク教授は「現在、韓国に住む人々の和がすなわち韓国的なものであり、韓国的なものを別に決めておいて、それに合う人と合わない人を分けるのは閉鎖的な態度だ。全国体育大会が本当に大韓民国国民のための伝統につながるためには、今日の韓国人の構成を反映しなければならない。同時に、今後韓国が進む姿も見せなければならない」と述べた。その一方で彼は議論が「普遍的人権に基盤を置いた包容要求」と「自己理解を固守する保守的体育界」の対立構図に固着されてはならないと強調する。

「韓国は国家とスポーツの境界を同一視する認識が強い。しかし、スポーツ産業の必要を考慮せずに認識水準だけを責めるのは現実性がない。スポーツ界内部の事情を考慮しなければならない。例えば、減少する人口とエリートプールの収縮で選手需給が急がれる地域や種目は、むしろ生存のために開放された立場を取ることもありうる。西欧の「多文化」も人権認識が先行して開かれた世の中というよりは、資本の必要性から先に多様化した世の中を生きようと成立した倫理に近いのではないか

開放圧力は道徳や倫理よりも社会と産業の変化から始まるという指摘だ。実際、野球・サッカー界ではもう少し進んだ議論が行われている。

サッカー選手のプンギ・サムエル（22）は07年、家族と一緒にアンゴラから韓国に渡った。韓国でサッカーを始め、2021年浦項スティーラーズに入団して話題を集めた。しかし難民の地位を認められただけで、まだ帰化手続きを終えていないサムエルはプロ世界で「外国人選手」に過ぎなかった。幼い有望株がプロ球団の限られた外国人選手の座を占めるのは容易ではなく、サムエルは結局チームを離れた。K3リーグの坡州市民サッカー団を経て、現在は所属なしで個人活動をしている。

サムエルの事例はイングランド・プレミアリーグ（EPL）の「ホームグロン（Homegrown、土着の）制度」を思い出させる。2010年から施行されたホームグロン制度は、球団エントリー25人のうち8人を「21歳になる前にイングランドやウェールズの球団で3年以上勤めた経歴のある選手」で満たすようにした義務規定だ。自国選手保護の趣旨が目的だが、上記条件を満たせば国籍と関係なく誰でもリーグ育成選手として認められる。かつてアーセナルのセスク・ファブレガス（スペイン）、マンチェスター・ユナイテッドのポール・ポグバ（フランス）がいずれもホームグロン選手だった。

韓国も変化がある。韓国野球委員会（KBO）は昨年、外国人選手関連規約に新しい条項を作り、韓国で中学校以上在学し、大韓野球ソフトボール協会の登録選手として活動した履歴のある人は国内選手として扱うようにした。一種の「KBO版ホームグロン」だ。韓国野球委員会の関係者は「かなり前から国籍差別、就職差別について選手たちと多くの話を交わしており、規約で誤解の余地がある部分は引き続き点検している」とし「（この規定を通じた移住民選手たちの流入こそ）今後望むこと」と説明した。

プロサッカーKリーグは既存制度と交通整理が必要な状況だ。韓国プロサッカー連盟の関係者は、「我々も2年前から議論してきた。高校3年間、プロチーム傘下のユースクラブに所属していた選手を優遇する優先指名制度というのがあるが、同じ条件で育成された外国人選手は外国人クォーター例外にする案を検討したことがある」と話した。ただし「今シーズンから外国人クォーター制限が最大6人まで増え、既存の『国内選手』出場機会が減りかねないという憂慮のためにひとまず議論を中止した」として「継続検討中」と付け加えた。

出典：https://www.hani.co.kr/arti/society/society_general/1093217.html

「相変わらず営業」… 体育館館長怪しい触感遊び、その後



大邱のある体育館の館長がボクシングを習いに来た小学生弟子を強制わいせつした疑いで拘束された中、被害子供の父親が無念さを吐露した。彼は加害者である館長が今後営業を継続できるという点を指摘したりもした。

25日オンラインによればセクハラ被害を受けた初等学校4年生の男の子の父親A氏は22日、あるオンラインコミュニティに「大邱ボクシング館長小学生セクハラ事件の両親です」という題名の文を載せ「私が両親として子供のためにできることはどんなことがあるだろうか」として助けを訴えた。

A氏が文を載せた日、大邱警察庁は性暴力犯罪の処罰などに関する特例法違反の疑いで立件されたボクシング場館長20代男性B氏が18日拘束されたと明らかにした。B氏は昨年6月から今年3月まで、自分が運営するボクシング場で初等学校4年生の男児を数回にわたってセクハラした疑いが持たれている。

A氏は「うちの子は自信が足りなくて自分の体を守る方法を探そうと2021年9月から家の近くのボクシング場に運動しに通った」として「熱心にしてきたが今年3月運動をしに行きたくないと。理由を尋ねると、子供が最初はぐずぐずしていたが、結局『館長がズボンを脱いで』と答えた」と伝えた。

A氏は「最初は運動中に起きたことだと思って子供に『ズボンだけ脱いだの?』と尋ねると『パンツまで下がった』という話を聞くようになった」とし「子供がこれ以上話したくなかったので館長に電話で事実確認をしたらごまかして『冗談だった』というふうにただ申し訳ないと言っていた」と話した。

A氏は通話以後、B氏に携帯メールを送り「館長がした行動は児童セクハラだ、ただ申し訳ないという言葉で済ますことができるか分からない」とし、体育館内部のCCTV映像を要求した。拒否すれば、警察の立会いの下で確認する」とも述べた。

B氏から受け取ったCCTV映像には、B氏が体育館の隅で体を避ける子供のズボンをつかんで強制的に引き下す姿がそのまま盛り込まれた。子供は膝まで下がったズボンをしっかり握って耐えたが、館長は子供を寝かせようと何度も肩と胸を押した。子供の陳述で館長が「横になって」と言った事実まで確認したA氏は翌日、警察署に告訴状を提出した。

A氏によると、事件後、性暴力被害者支援施設であるひまわりセンターの調査過程で、子供の衝撃的な陳述がさらに出た。子供は館長が自分のズボンを脱いだことが何度もあり、「触感遊びをしよう」と言って子供をトイレに連れて行きマスクで子供の目を覆って自身の身体部位に触らせたこともあったと陳述した。

A氏は「子供がひまわりセンターを通じて検査と治療を受けているが、極度の不安と憂鬱症状で薬物治療を進行しなければならないようだ」とし「該当ボクシング場が(家から)わずか1分の距離なので(子供は)日が暮れた後、家の外に出られず館長が本人と家族を訪ねて報復するのではないかと恐怖に震えている」と吐露した。

続いて「(B氏の)拘束事実を伝えられた後、子供にも『もう恐れる必要はない』と話したが、子供は家に到着するやいなや体育館建物の看板を先に見る。消えていない看板を確認して『お母さん、どうかあの看板を消して』と言ったこともある」とし「子供が受けた傷に胸が張り裂けそうに痛い」と訴えた。

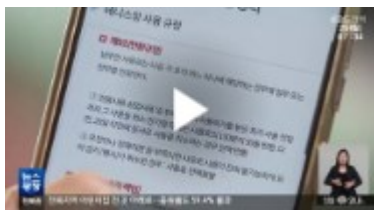
A氏は特に「キッズボクシングで機関を広報したので(該当ボクシング場が)当然子供機関だと思ったが、そうでないため国でも営業を制止できないという」として「館長が引き続き営業できるのが話にならないのではないか」と対策を促した。

児童福祉法によると、児童虐待関連犯罪で刑または治療監護を宣告され確定した人は一定期間児童関連機関を運営したり該当機関に就職できない。しかし、体育館は児童関連機関に指定されていない場合がほとんどだ。ただし未成年者強制わいせつ疑惑が認められる場合、該当犯罪者には身元情報公開・告知および児童・青少年関連機関就職制限命令が下されることもありうる。

出典：<https://news.kmib.co.kr/article/view.asp?arcid=0018296896&code=61121211&cp=nv>

04 KBS NEWS 2023.05.29

公共体育施設「度胸営業」…「キャンセルは大変で払い戻しも半分だけ」



[アンカー]

人気の高い普通の公共体育施設は予約をしなければ利用できません。ところが住民が払った税金で建てておいて運営しながら、いざ住民を相手に度胸のある営業をしています。キム・ギュヒ記者が取材しました。

[レポート]

市民が二人ずつペアになってテニスをしています。

全州市が運営する公共体育施設で、利用するには施設管理公団のホームページから予約しなければなりません。

1回の利用料は3万ウォン前後。

テニスコートの利用需要が大幅に増え、予約することも容易ではありませんが、利用者がより不便を感じるのは予約をキャンセルしたり変更する時です。

オンラインで予約を受けながら、変更やキャンセルは電話でしかできないようにしたからです。

過度の違約金まで払わせて半月前に予約をキャンセルしても払い戻しは半分しかできません。

[イ・ジュヒョン/テニスコート利用市民:「非常に不合理だと思います。もし改善されたら、キャンセル一週間前、5日前、3日前というふうにしてペナルティを与えて……。」]

使用日の5日前までは予約金の90から100%を払い戻すように定めた他の市郡とは対照的です。

全州市は3月、国民権益委から払い戻し基準を緩和しろという条例改正勧告を受けても履行していません。

[全州市体育産業課関係者/音声変調:「手続きがあるので、それで下半期頃にその部分は修正されるのではないかと思います。90%まで返還できるように私たちが条例を改正しなければならない部分です。」]

全州市議会は条例改正を検討すると一步遅れて明らかにし、施設管理公団は利用者が予約取り消しと変更もオンラインでできるよう早期にシステムを変えると明らかにしました。

KBS ニュースのキム・ギュヒです。

出典：<https://news.kbs.co.kr/news/view.do?ncd=7686342&ref=A>

1歩当たり1ウォンずつ…運動も寄付も！学校別の多様な体育活動



日常のあちこちに位置する新型コロナウイルス感染症の深いルーツは依然として私たちに多くの影響を与えている。特にコロナ以前に比べて体力が落ち、社会・情緒的に困難を経験する学生たちが大きく増えた。実際、大邱市教育庁の学生健康体力評価低体力学生の割合

は、新型コロナウイルス以前の2019年4.99%から2020年11.47%へと大幅に増えた。

このような問題を解決するため、市教育庁は昨年から学校単位のスポーツ活動を支援する事業を始めた。今年は「学生1人1スポーツ活性化事業」というタイトルで6つの細部事業を構想し、計373校を選定・拡大・運営している。大邱地域の小中高80%がこの事業に参加しているのだ。

学校がどんな特性を生かして「学生1人1スポーツ活性化事業」を計画し進行しているのか3校を調べてみた。

◆素足歩きで始まる爽やかな一日、大邱トンイル小

大邱寿城区のトンイル小学校に通っている2年生の金ナレさん（仮名）は、裸足で一日を始める。朝の登校と同時に友達と会話をしながら裸足で運動場を歩く。歩いていると、運動場はいつの間にか生徒や先生でいっぱいになる。2限目の後、中間体育の時間には裸足で運動場を5周歩いた後、裸足の遊び場で友達と楽しく土遊びをする。放課後も伝統遊び場に寄って下校する。運動場と裸足の遊び場はナレにとって学校を楽しい場所にしてくれる「ヒーリングスポット」だ。

トンイル初等学校は生徒数に比べて運動場が狭く、十分な身体活動が行われにくかった。これに対し学校構成員たちは「生徒1人1スポーツ活性化事業」に参加し、1時間目の授業前の登校と同時にウォーキング運動を活性化して生徒たちの身体活動時間を確保し、自然に交友関係も改善する裸足ウォーキング活動を企画した。市教育庁から支援を受けた370万ウォンの予算で砂運動場を整備し、歩いた後に足を洗える水道施設を拡充し、案内垂れ幕を掲示するなど学生たちが自然に裸足歩行を進行できるよう条件を作った。

これにとどまらず、ウォーキング運動を家庭に拡散するために保護者が一緒に参加する行事も実施し、学生たちが着実にウォーキング運動ができるよう50日、100日単位でプレゼントと賞状授与も計画している。

裸足歩行に参加したトンイル小学校3年生は「朝、学校に来て裸足歩行をすれば一日中気分が良い。元気になる気もするし、友達と話しながら歩くのも楽しい。これからも毎日裸足歩きをしたい」と話した。

◆空間革新でどこでもエクササイズ！慶北女子高校

大邱中区にある慶北女子高校の昼休みは、他の学校とはかなり違う様子だ。給食を早く終えた生徒たちは友達と一緒に三々五々体育館に集まる。体育館にはバドミントンコート、卓球台、乗馬機、ランニングマシン、ダーツ、ピラティス小道具など学生たちが興味深く参加できる多様な運動器具が随所に設置されている。早く到着した生徒たちは人気の運動器具を先取りし、遅れて到着した生徒たちは空いている他の器具を利用したり、静かに順番を待つ。教師たちも昼食を終えた後、体育館で生徒たちと一緒に運動しながら体力を管理し、体育の先生たちは生徒および教師が安全に活動に没頭できるようそばで色々な助けを与える。

長い伝統を誇る大邱の名門慶北女子高校は、女子生徒だけで構成された学校だ。男子生徒より身体活動に対する関心が足りない女子生徒たちの体力を育て、良い運動習慣を身につけるため、慶北女子高校は学生1人1スポーツ活性化事業の中でも女子生徒体育活性化事業に参加し、今年420万ウォンの予算を支援された。

生徒たちが学校の中でいつでも運動できるようにすることが重要だという考えから、学校体育館の内部と外部に生徒たちが自由に運動できる器具を備えた。現在、昼休みには毎日50人以上の学生が自由に活動に参加している。

昼休みごとに友達とバドミントンをしている2年生のある女子生徒は、「勉強のために受けたストレスも解消し、ダイエットにもなるようで嬉しい。何よりも5時間目の授業に眠気が溢れたりもしたが、昼休みに運動をしてみると眠気が少なくなり授業にもっと集中できるようになった」と話した。

◆グローバルリーダーへの第一歩は朝の運動へ！ 大邱国際高

大邱北区にある国際高は全校生が寄宿生活をする学校の特性を生かして市教育庁から370万ウォンの予算を受け「朝歩く日」、「さわやかな朝、元気な一日」と学生自治機構で運営する「ランチリーグ」プログラムを進行している。

「朝歩く日」は全校生が参加しウォーキングアプリ「ビッグワーク」で歩数を累積して記録する活動だ。ビッグワークアプリは単純に活動量を記録する機能に留まらず歩数に応じてポイントを支給するが、1歩当たり1ウォン相当のポイントが支給される。一日最大1万歩、つまり1万ウォンずつ寄付ができる。ポイントを貯めた後、自分が望むキャンペーンに歩数を寄付することで、生徒たちの人格教育効果も享受できる。

「さわやかな朝、健康な一日」は午前7時朝食後7時30分から1限目開始10分前の8時20分まで進行するプログラムだ。

この時間の間、学生たちは曜日別に校内体育館、ジム、本館棟の大講堂で行われるヨガ、フィットネス、バドミントンなどのプログラムに参加する。1年生と2年生が共に参加しており、3年生のうち一部希望学生たちも一緒にするので反応が良い。

特に水曜日は2年生と3年生の希望者を、木曜日は1年生を対象に指導教師がより効果的な運動ができるようそばで教える。

同時に昼休みを利用した「ランチリーグ」は教師たちが関与せず、学生自治会傘下の健康体育部所属の学生たちが自ら企画し運営している。審判も学生たちが直接引き受けている。毎学期2週間行われるが、今回の1学期には4月第3週、第4週にかけてクラス別対抗として女子学生ドッジボール競技、男子学生サッカー競技、混成でバレーボール競技が激しく繰り広げられた。現在、健康体育部の学生たちは9月中に実施される2学期のランチリーグも熱心に企画している。

大邱市教育庁のイ・ヨンギル体育芸術保健課長は「学校は生徒たちが一日の中で最も多くの時間を過ごす空間だ。友達と共にするスポーツ活動が体力、社会性、忍耐力など生きていくのに必要な多様な力量を育て、自ら成長する機会になると考え、今後も引き続き支援を拡大していく」と話した。

出典：<https://news.imaeil.com/page/view/2023052507570809979>

06 週間スポーツニュース

全羅南道教育庁、「障害学生人権支援団」運営

<https://www.sportsseoul.com/news/read/1315968?ref=naver>

慶南道体育会、公共スポーツクラブワークショップ開催

<https://www.viva100.com/main/view.php?key=20230524010006916>

済州島のスポーツ有望株 449 人が少年体育大会に出場

https://www.pressian.com/pages/articles/2023052216380481717?utm_source=naver&utm_medium=search

ロナウドに続きメッシ？サウジ「スポーツウォッシング」に 10 年間 2 兆ウォン支出

<https://www.etoday.co.kr/news/view/2251668>

京畿道、7 月 31 日まで「人権大賞・作品公募」…9 月発表

<https://www.sportsseoul.com/news/read/1314726?ref=naver>

慶南体育会、スポーツクラブ力量強化ワークショップを開催

<http://www.knnews.co.kr/news/articleView.php?idxno=1404764>

光州水泳連盟、競泳 3 級審判講習会・補習教育開催

<http://www.namdonews.com/news/articleView.html?idxno=725502>

大韓剣道会、第 52 回全国少年体育大会剣道競技教育文化フェスティバル開催

<http://www.stoo.com/article.php?aid=87332778422>

国民体育振興公団、今年の優秀スポーツ企業選定…6 月 12 日締め切り

<https://www.mbn.co.kr/news/sports/4933414>

体育市民連帯オンライン 定期後援案内

万人が楽しむスポーツ世界、体育市民連帯が共に作ります。
私達連帯の活動に積極的に賛同していただくことを願います。

私たち体育市民連帯は体育人の権益保護と
福祉実現のために努力しています。
皆さんの小さな心づかいがより良い世界のための
体育市民連帯活動に強固な土台となります。
体育市民連帯会員として力になろうと
される方は下の口座に後援お願いします。

国民銀行 086601-04-095940

口座名義：体育市民連帯

オンライン定期後援は下のリンクを通じてホームページからできます。

多くの関心をお願いします。

INFOMATION

体育市民連帯 ソウル市 瑞草区 瑞草洞 孝寧路 230 スンジョンビル 407 号

Tel : 02-2279-8999、E-mail : sports-cm@hanmail.net ホームページ : <http://www.sportscm.org/>

日本語訳 : 佐藤好行 新日本スポーツ連盟 国際活動局 韓国担当 jr1fep@gmail.com

週刊ニュースレターバックナンバー (資料室) <http://www.yg.jpn.org/sportscm/index.html>